

平成27年度 北九州市商圈調査報告書

《ダイジェスト版》

平成28年3月

目 次

1	調査の概要.....	1
2	北九州市の商圈.....	3
3	小倉中心市街地の商圈.....	5
4	黒崎中心市街地の商圈.....	7
5	主な商業地区への買物出向率	9
6	小倉中心市街地の利用状況	10
7	黒崎中心市街地の利用状況	13
8	ふだんの買物行動	16
9	コンビニエンスストアの利用状況.....	19
10	ドラッグストアの利用状況.....	20
11	ネットショッピングの利用状況	21
12	JR博多シティの利用状況.....	22

1 調査の概要

(1) 商圈調査の目的

本調査では、北九州市の小売業の商圈を明らかにするとともに、市民及び周辺市町村居住者の買物行動とその変化を把握することによって、今後の商業施策を展開していく上で基礎資料とすることを目的としている。

(2) 調査の概要

ア 調査地域と対象者

調査地域は、北九州市圏域（北九州市及び北九州市を中心とした概ね半径 40km 圏内にある 29 市町村。ただし、築上郡上毛町は除く。）であり、過去に実施してきた商圈調査と同一地域である。

居住区分	対象者数	対象の範囲
市内居住者	8,500 名	平成 27 年 9 月 1 日時点の住民基本台帳より無作為に抽出した 18 歳以上の男女
市外居住者	2,800 名	調査対象エリア内に居住する 18 歳以上の男女



イ 調査方法と期間

居住区分	調査方法	調査期間
市内居住者	郵送による配布・回収	平成 27 年 9 月 28 日～11 月 9 日
市外居住者	調査員の訪問による配布・回収	平成 27 年 9 月 24 日～11 月 10 日

ウ 調査票の回収状況

居住区分	配布数	有効回収数	有効回収率
市内居住者	8,500	3,389	39.9%
市外居住者	2,800	2,663	95.1%
合計	11,300	6,052	53.6%

■ 市区町村別配布数及び回収数 ■

	配布数	回収数		配布数	回収数
北九州市内	8,500	3,389	田川地域	199	191
門司区	902	320	田川市	100	96
小倉北区	1,563	561	田川郡香春町	24	21
小倉南区	1,890	758	田川郡添田町	21	21
若松区	745	310	田川郡川崎町	36	36
八幡東区	613	255	田川郡大任町	11	11
八幡西区	2,268	908	田川郡赤村	7	6
戸畑区	519	209	京築地域	539	507
区不明	-	68	行橋市	147	147
北九州市外計	2,800	2,663	豊前市	54	52
遠賀・宗像地域	476	444	京都郡苅田町	73	65
中間市	88	84	京都郡みやこ町	42	37
宗像市	196	175	築上郡吉富町	14	14
遠賀郡芦屋町	29	29	築上郡築上町	39	35
遠賀郡水巻町	59	59	中津市	170	157
遠賀郡岡垣町	65	58	下関地域	1,026	1,003
遠賀郡遠賀町	39	39	下関市	553	548
直方・飯塚地域	560	518	宇部市	343	331
直方市	117	112	山陽小野田市	130	124
飯塚市	265	265			
宮若市	59	45			
鞍手郡小竹町	17	15			
鞍手郡鞍手町	34	20			
田川郡糸田町	19	17			
田川郡福智町	49	44			
			合計	11,300	6,052

(3) 報告書記述における注意事項

報告書に掲載した図表中のサンプル数は「N」で表記し、図表中の数値は原則として、回答数を母数とした構成比で表示している。この構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入し、端数処理をしているため、合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

なお、複数回答（2 つ以上の選択肢を回答）の場合、構成比は 100%を超える。

また、年代別などの表における左側のサンプル数は性別・年齢・居住地等の属性不明者を除いているため、これを合計しても全体のサンプル数と必ずしも同じになるとは限らない。

2 北九州市の商圏

《有効商圏人口の推移》

- 北九州市の有効商圏人口は、179万8千人（千人未満は切り捨て記述。以下同様。）。
- 平成22年までは減少傾向にあったが、平成22年と比べて、北九州市内は減少しているものの、市外が大きく増えた結果、全体では8万2千人の増加。
- 増加している地域は下関地域5万8千人、直方・飯塚地域2万9千人、田川地域1万5千人、減少している地域は遠賀・宗像地域で8千人減少。

■ 北九州市有効商圏人口の推移 ■



	北九州市の有効商圏人口 (人)					増加率 (%) (b)/(a)-1	買物出向率 (%)		
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年 (a)	平成27年 (b)		平成22年 (c)	平成27年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	1,019,598	1,011,471	993,525	976,846	961,815	▲ 1.5%	100.0%	100.0%	0.0
北九州市外計	867,902	782,875	794,605	739,813	837,116	13.2%	52.8%	61.6%	8.8
遠賀・宗像地域	196,668	166,849	175,298	167,473	158,965	▲ 5.1%	70.8%	68.5%	▲ 2.3
直方・飯塚地域	142,188	127,026	116,457	115,313	144,697	25.5%	41.3%	53.5%	12.2
田川地域	75,722	53,354	56,642	37,740	52,966	40.3%	37.7%	56.2%	18.5
京築地域	192,112	161,631	183,009	178,670	181,587	1.6%	67.2%	69.6%	2.4
下関地域	261,212	274,015	263,199	240,617	298,901	24.2%	46.3%	59.7%	13.4
合計	1,887,500	1,794,346	1,788,130	1,716,659	1,798,931	4.8%	72.2%	77.5%	5.3

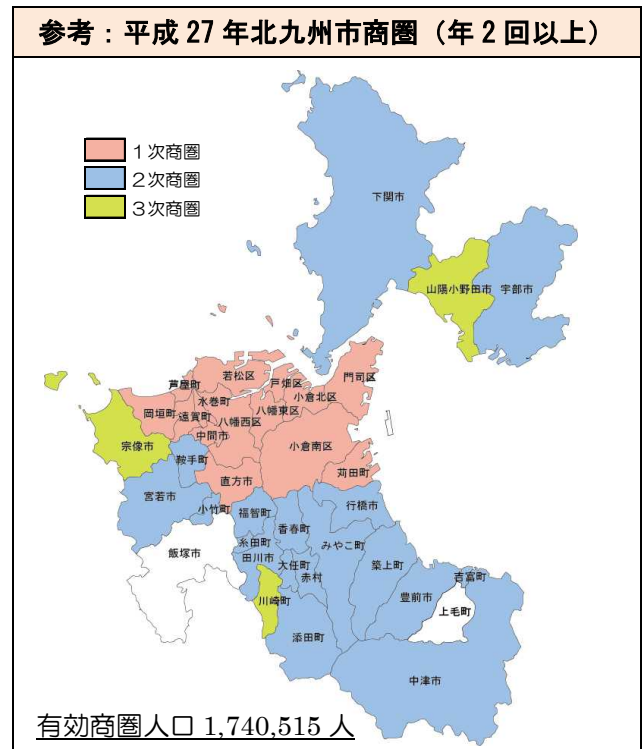
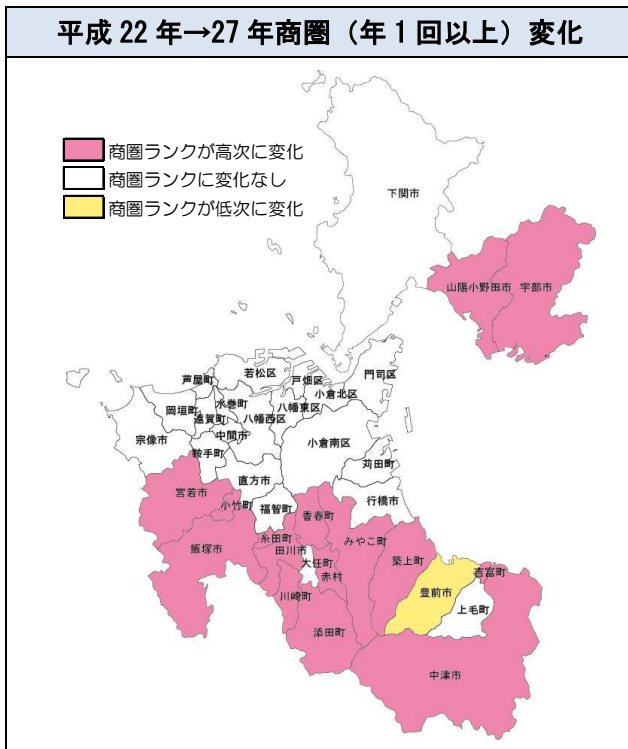
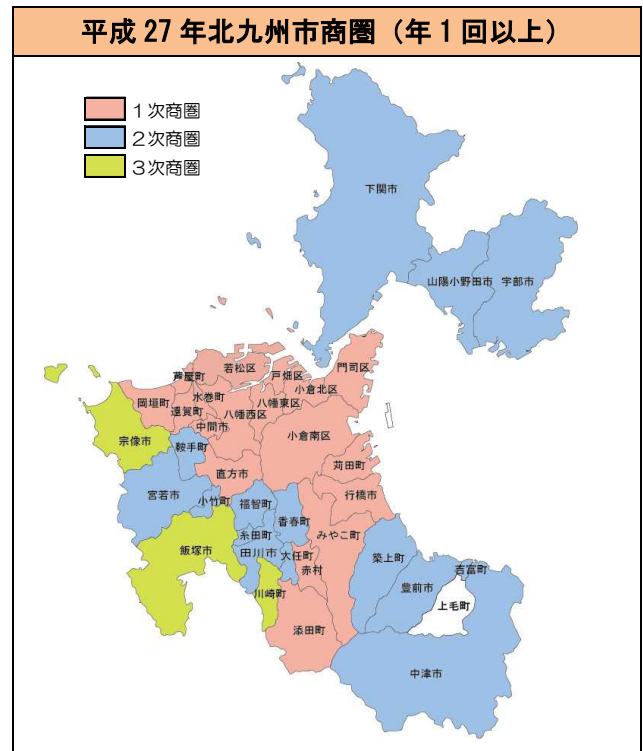
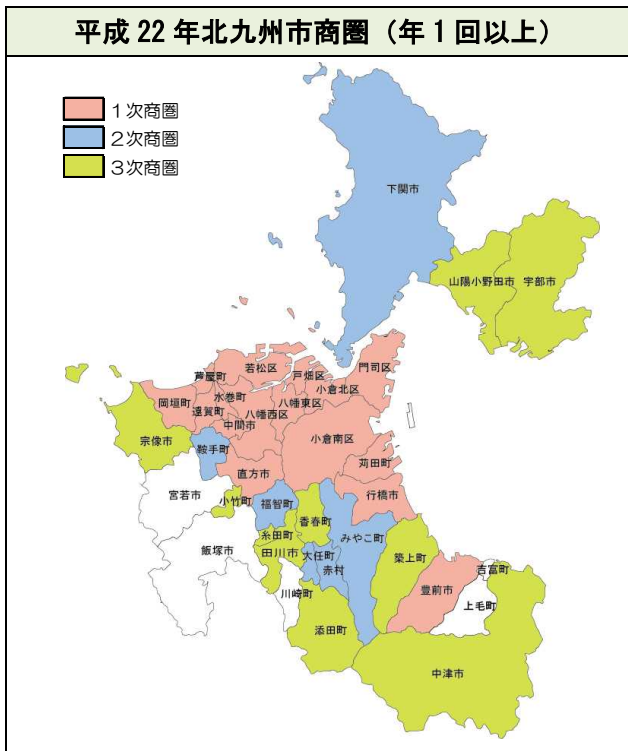
注) 有効商圏人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。平成27年は速報値。

※有効商圏人口は、北九州市圏域の市町村ごとに、当該市町村の人口に当該市町村の買物出向率を乗じて得た数値とした。(以下同様。)

《商圏ランクの推移》

H27年・年1回以上でみた商圏ランク	H22年からH27年の商圏ランク変化
《1次商圏》…7区11市町村 ・北九州市内全区・中間市・芦屋町・水巻町 ・岡垣町・遠賀町・直方市・添田町・赤村 ・行橋市・苅田町・みやこ町 《2次商圏》…15市町村 ・宮若市・小竹町・鞍手町・糸田町・福智町 ・田川市・香春町・大任町・豊前市・吉富町 ・築上町・中津市・下関市・宇部市 ・山陽小野田市 《3次商圏》…3市町村 ・宗像市・飯塚市・川崎町	《1次商圏へランクアップ》…3市町村 ・添田町・赤村・みやこ町 《2次商圏へランクアップ》…10市町村 ・宮若市・小竹町・糸田町・田川市・香春町 ・吉富町・築上町・中津市・宇部市 ・山陽小野田市 《3次商圏へランクアップ》…2市町村 ・飯塚市・川崎町 《ランクダウン》…1市町村 ・豊前市(1次→2次)

■ 北九州市商圏ランクMAP ■



【 参考：商圏の定義と有効商圏人口 】

北九州市圏域の居住者に対する調査結果をもとに、市区町村ごとに、居住者が北九州市内のいずれかの商業地区に年 1 回以上の頻度で買物に出向く比率（買物出向率）を算出し、買物出向率に応じて以下の 3 区分で商圏ランクを設定した。なお、北九州市の各行政区は、北九州市全体の商圏としては 1 次商圏に分類した。

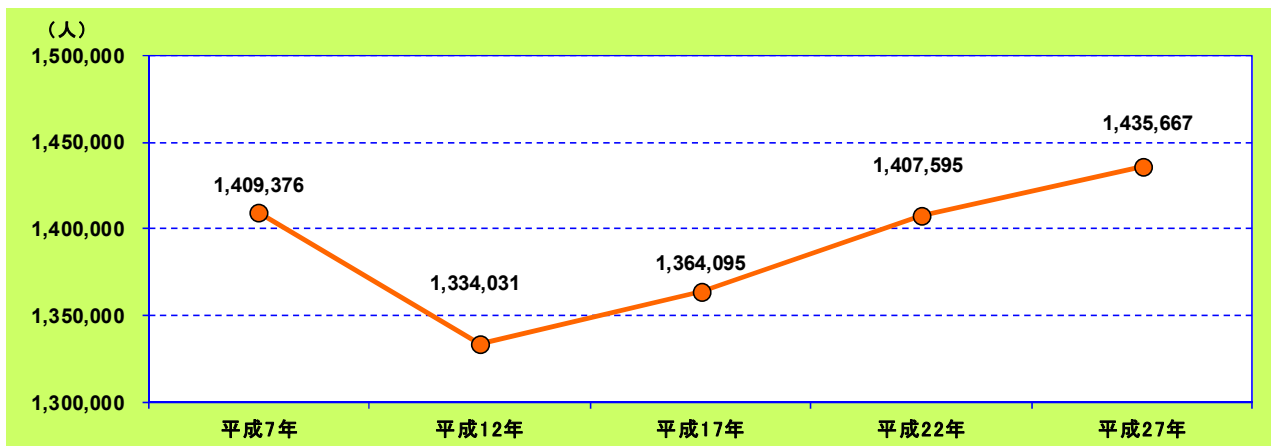
1 次商圏	買物出向率 70%以上の市区町村
2 次商圏	買物出向率 50%以上 70%未満の市区町村
3 次商圏	買物出向率 30%以上 50%未満の市区町村

3 小倉中心市街地の商圈

《有効商圈人口の推移》

- 小倉中心市街地の有効商圈人口は、143万5千人。
- 平成12年を底に増加傾向にあり、平成22年と比べて、北九州市内は11万2千人減少しているものの、市外が14万人と大きく増えた結果、全体では2万8千人増加。
- 市外を地域別にみると、全ての地域で増加しており、下関地域6万3千人、直方・飯塚地域4万人、京築地域1万6千人の順となっている。

■ 小倉中心市街地有効商圈人口の推移 ■



	小倉中心市街地の有効商圈人口 (人)					買物出向率 (%)			
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年 (a)	平成27年 (b)	増加率 (%) (b)/(a)-1	平成22年 (c)	平成27年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	783,457	761,398	787,825	830,879	718,128	▲ 13.6%	85.1%	74.7%	▲ 10.4
北九州市外計	625,919	572,633	576,270	576,716	717,539	24.4%	41.2%	52.8%	11.6
遠賀・宗像地域	65,482	61,464	72,542	95,093	100,640	5.8%	40.2%	43.4%	3.2
直方・飯塚地域	64,364	73,704	65,357	73,413	113,478	54.6%	26.3%	42.0%	15.7
田川地域	65,746	44,670	46,666	33,076	48,331	46.1%	33.0%	51.3%	18.3
京築地域	178,659	138,845	141,966	149,946	166,115	10.8%	56.4%	63.6%	7.2
下関地域	251,668	253,950	249,739	225,188	288,975	28.3%	43.4%	57.7%	14.3
合計	1,409,376	1,334,031	1,364,095	1,407,595	1,435,667	2.0%	59.2%	61.9%	2.7

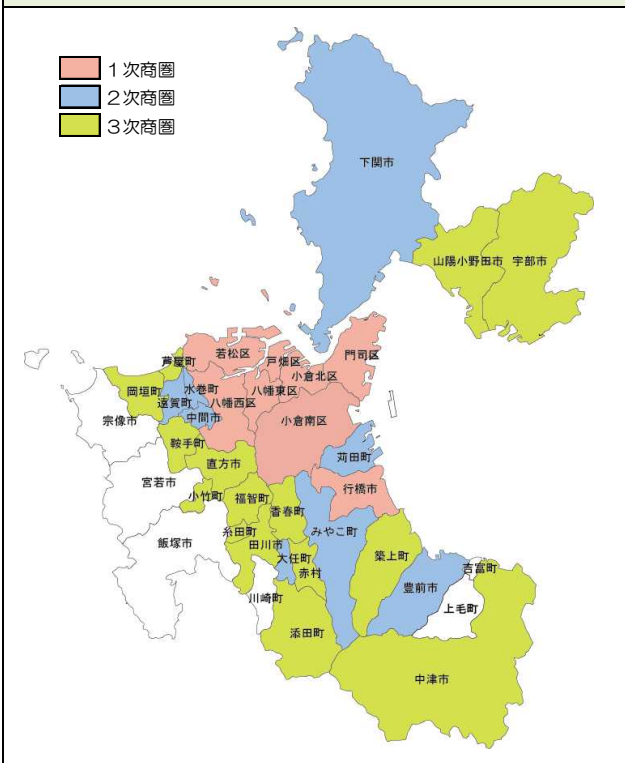
注) 有効商圈人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。平成27年は速報値。

《商圈ランクの推移》

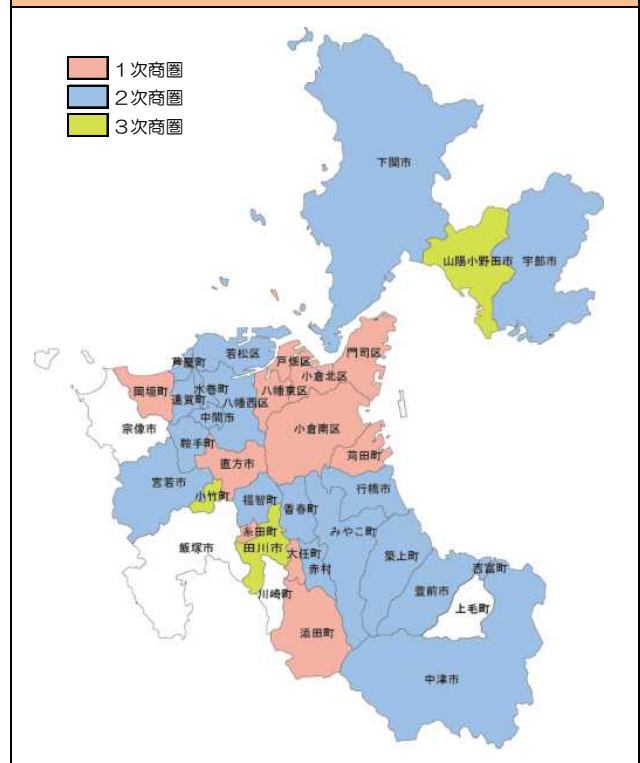
H27年・年1回以上でみた商圈ランク	H22年からH27年の商圈ランク変化
《1次商圈》…5区6市町村 ・門司区・小倉北区・小倉南区・八幡東区・戸畑区 ・岡垣町・直方市・糸田町・添田町・大任町 ・苅田町 《2次商圈》…2区17市町村 ・若松区・八幡西区 ・中間市・芦屋町・水巻町・遠賀町・宮若市 ・鞍手町・福智町・香春町・赤村・行橋市 ・豊前市・みやこ町・吉富町・築上町・中津市 ・下関市・宇部市 《3次商圈》…3市町村 ・小竹町・田川市・山陽小野田市	《1次商圈へランクアップ》…6市町村 ・岡垣町・直方市・糸田町・添田町・大任町 ・苅田町 《2次商圈へランクアップ》…10市町村 ・芦屋町・宮若市・鞍手町・福智町・香春町 ・赤村・吉富町・築上町・中津市・宇部市 《ランクダウン》…2区1市町村 ・若松区 (1次→2次) ・八幡西区 (1次→2次) ・行橋市 (1次→2次)

■ 小倉中心市街地商圏ランクMAP ■

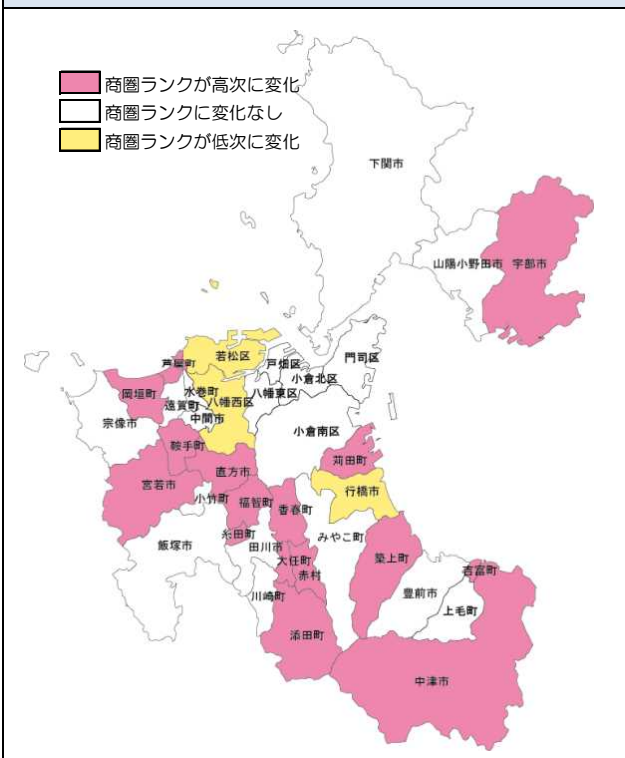
平成 22 年小倉中心市街地商圏（年 1 回以上）



平成 27 年小倉中心市街地商圏（年 1 回以上）

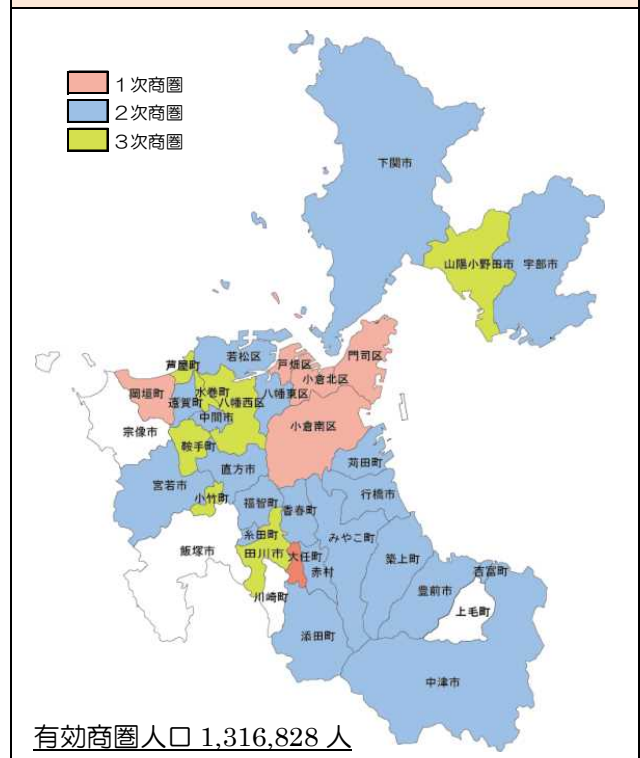


平成 22 年→27 年商圏（年 1 回以上）変化



【参考】

平成 27 年小倉中心市街地商圏（年 2 回以上）

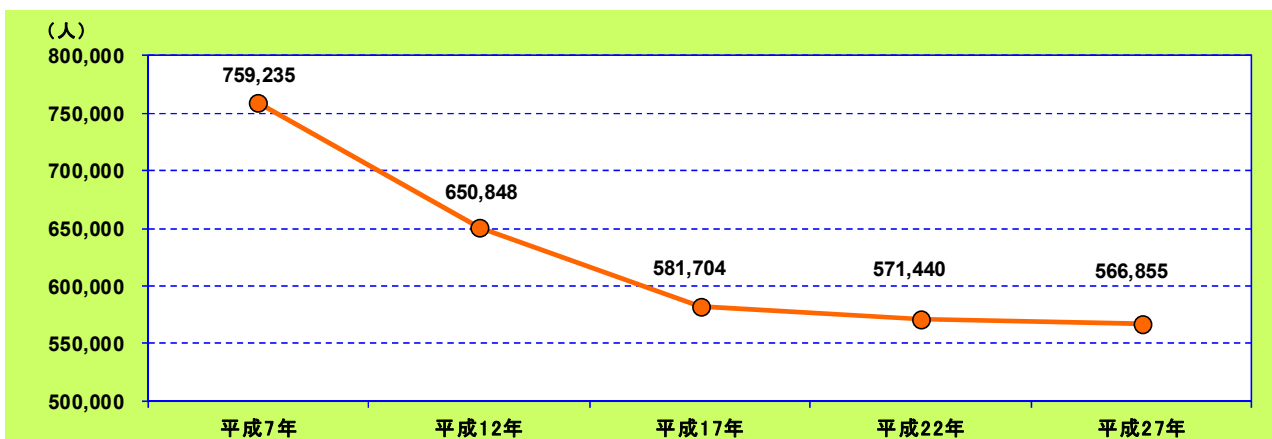


4 黒崎中心市街地の商圈

《有効商圈人口の推移》

- 黒崎中心市街地の有効商圈人口は 56 万 6 千人。
- 依然として減少傾向にあるが、平成 22 年、平成 27 年と減少幅が小さくなっており、下げ止まりの兆しがうかがわれる。
- 平成 22 年と比べて、北九州市内は 3 万 3 千人減少したものの、市外が 2 万 8 千人増加した結果、全体では 4 千人の減少。
- 市外を地域別にみると、増加したのは京築地域 2 万 9 千人、下関地域 1 万 5 千人、直方・飯塚地域 1 万人。遠賀・宗像地域と田川地域では減少。

■ 黒崎中心市街地有効商圈人口の推移 ■



	黒崎中心市街地の有効商圈人口 (人)					買物出向率 (%)			
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年 (a)	平成27年 (b)	増加率 (%) (b)/(a)-1	平成22年 (c)	平成27年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	452,677	412,810	373,129	371,902	338,705	▲ 8.9%	38.1%	35.2%	▲ 2.9
北九州市外計	306,558	238,038	208,575	199,538	228,150	▲ 14.3%	14.2%	16.8%	▲ 2.6
遠賀・宗像地域	177,934	135,687	114,300	110,884	86,993	▲ 21.5%	46.9%	37.5%	▲ 9.4
直方・飯塚地域	96,933	67,628	65,303	57,432	67,515	▲ 17.6%	20.6%	25.0%	▲ 4.4
田川地域	14,341	5,039	5,487	6,292	3,456	▲ 45.1%	6.3%	3.7%	▲ 2.6
京築地域	11,633	19,026	11,231	10,181	39,717	▲ 290.1%	3.8%	15.2%	▲ 11.4
下関地域	5,717	10,658	12,254	14,749	30,469	▲ 106.6%	2.8%	6.1%	▲ 3.3
合計	759,235	650,848	581,704	571,440	566,855	▲ 0.8%	24.0%	24.4%	▲ 0.4

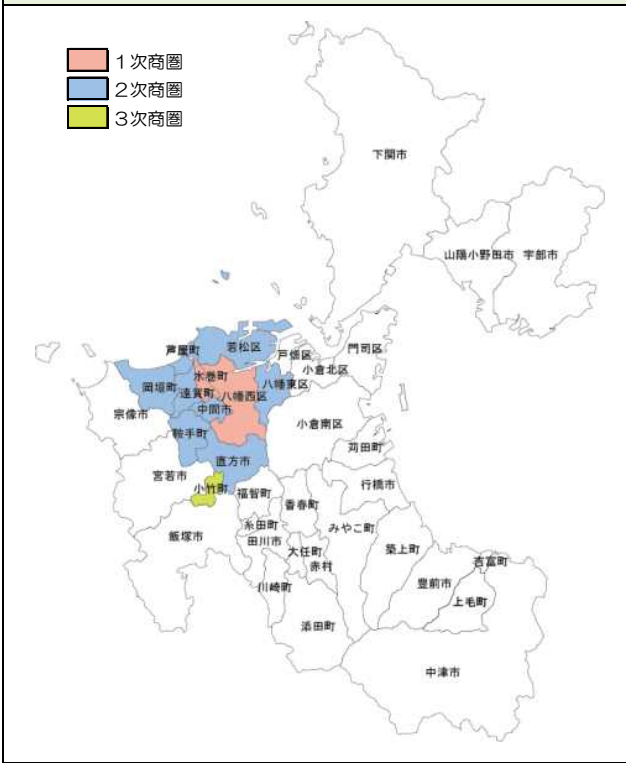
注) 有効商圈人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。平成27年は速報値。

《商圈ランクの推移》

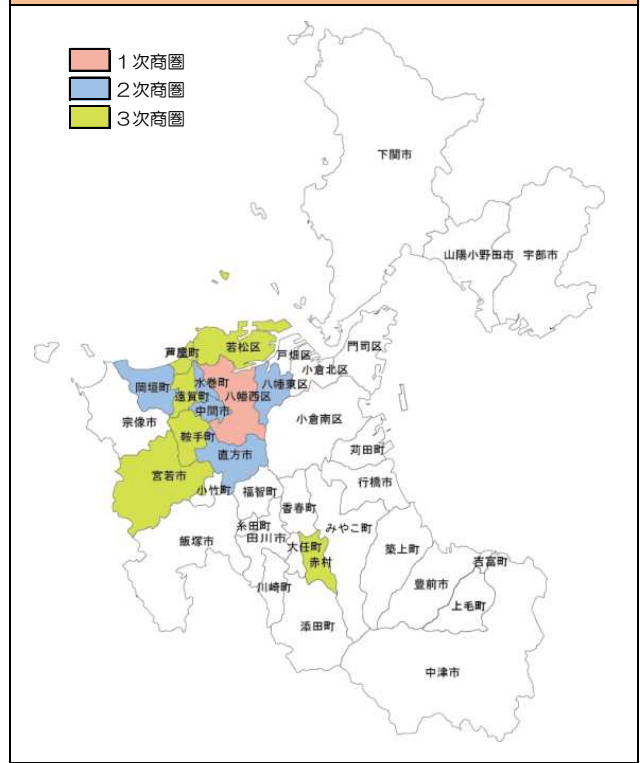
H27年・年1回以上でみた商圈ランク	H22年からH27年の商圈ランク変化
《1次商圈》…1区 ・八幡西区 《2次商圈》…1区4市町村 ・八幡東区 ・中間市・水巻町・岡垣町・直方市 《3次商圈》…1区5市町村 ・若松区 ・芦屋町・遠賀町・宮若市・鞍手町・赤村	《3次商圈へランクアップ》…2市町村 ・宮若市・赤村 《ランクダウン》…1区5市町村 ・若松区(2次→3次) ・芦屋町(2次→3次) ・水巻町(1次→2次) ・遠賀町(2次→3次) ・小竹町(3次→ランク外) ・鞍手町(2次→3次)

■ 黒崎中心市街地商圏ランクMAP ■

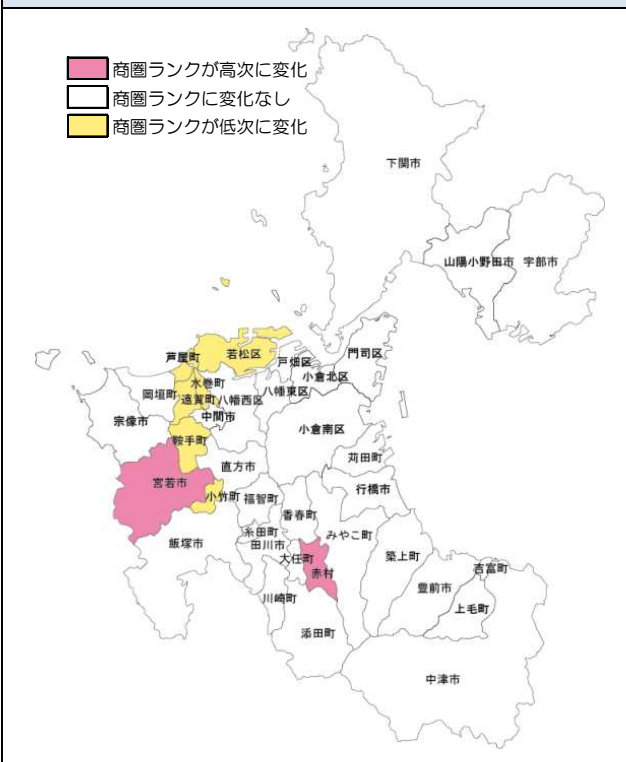
平成 22 年黒崎中心市街地商圏（年 1 回以上）



平成 27 年黒崎中心市街地商圏（年 1 回以上）

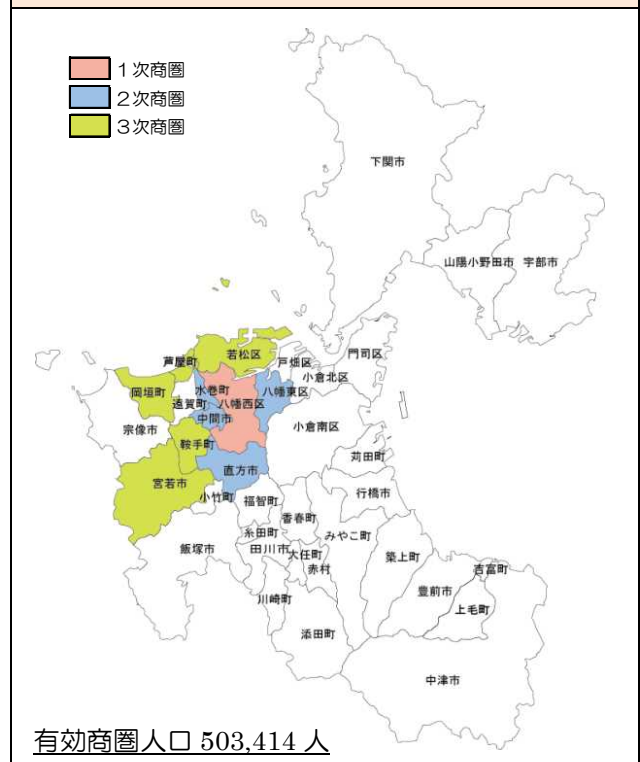


平成 22 年→27 年商圏（年 1 回以上）変化



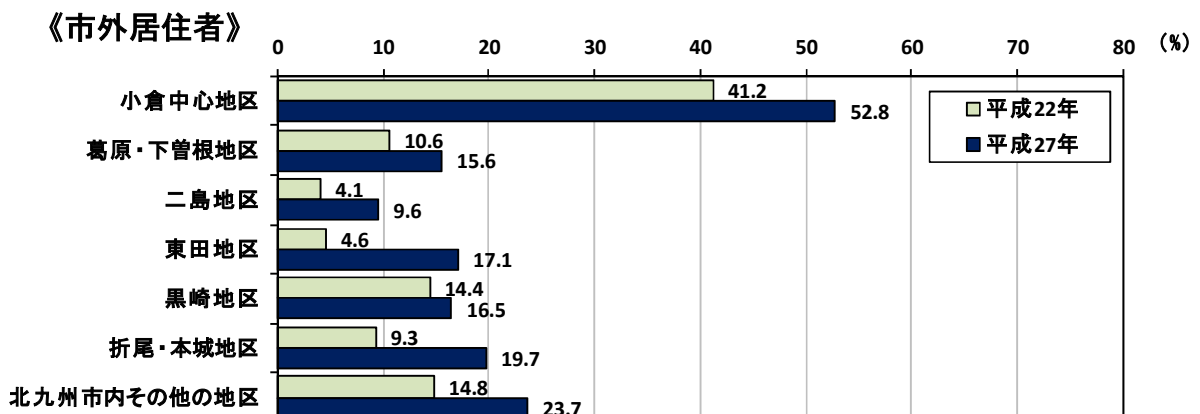
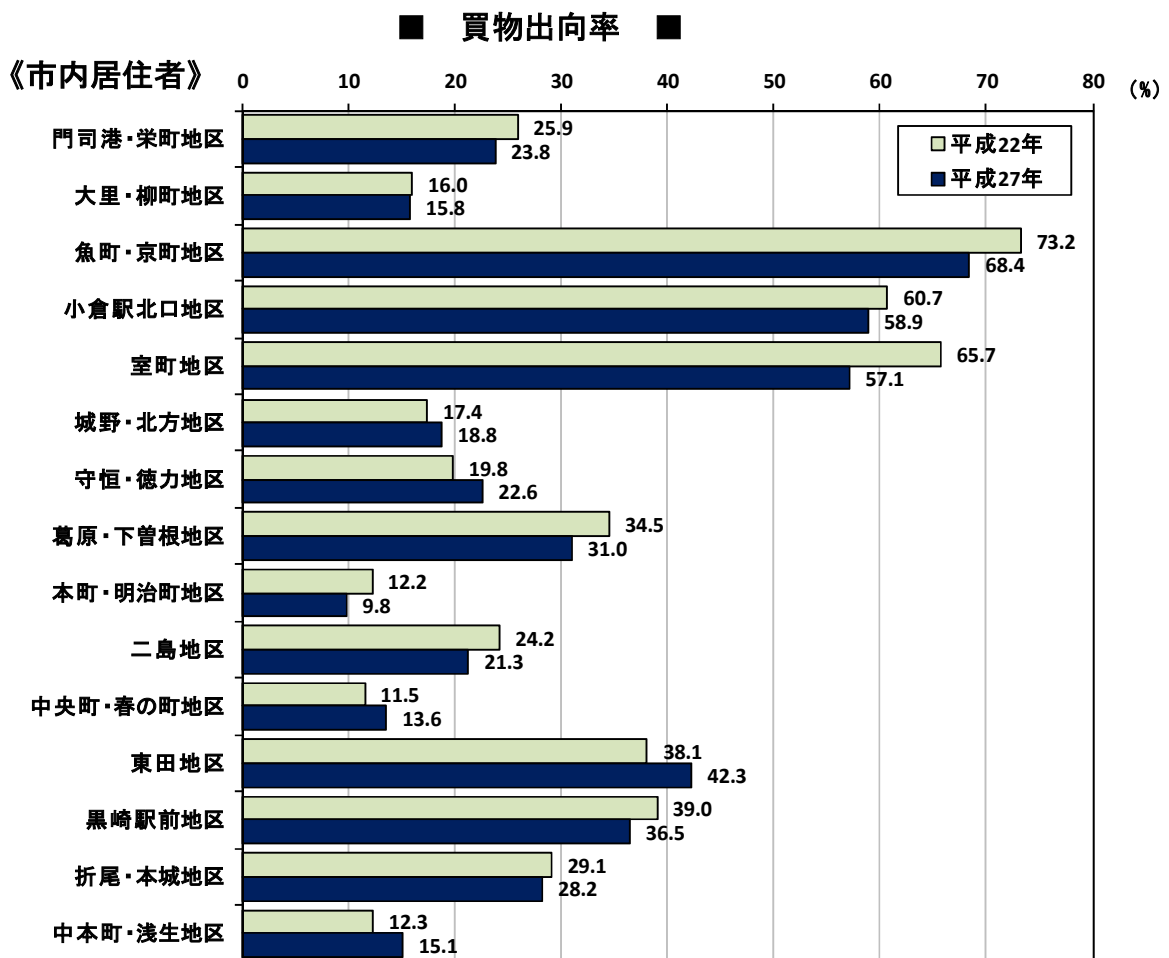
【参考】

平成 27 年黒崎中心市街地商圏（年 2 回以上）



5 主な商業地区への買物出向率

- 市内居住者の主な商業地区への年1回以上の買物出向率は、魚町・京町地区や小倉駅北口地区、室町地区への出向率が高く、大型店の集積が進んでいる東田地区や黒崎駅前地区、葛原・下曾根地区、折尾・本城地区などが続いている。
- 平成22年の出向率と比べると、5地区（城野・北方地区、守恒・徳力地区、中央町・春の町地区、東田地区、中本町・浅生地区）で出向率が上昇。
- 市外居住者の主な商業地区への年1回以上の買物出向率は、小倉中心地区への出向率が他の地区と比べて圧倒的に高く、平成27年は50%を超えている。
- 平成22年の買物出向率と比べると、全ての地区で買物出向率が上昇。



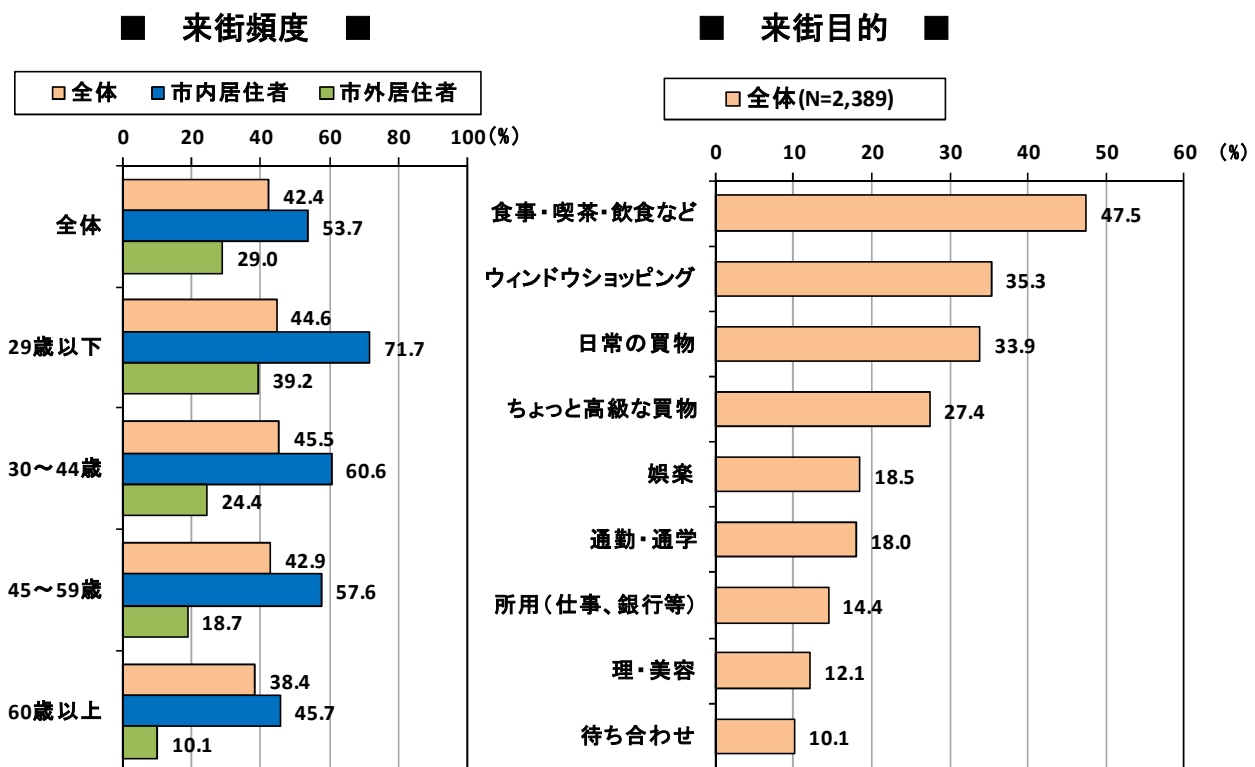
6 小倉中心市街地の利用状況

《来街頻度》

- 小倉中心市街地を買物目的に限らず月1回以上訪れる人の割合は、全体では42.4%（市内居住者53.7%、市外居住者29.0%）である。
- 年代別にみると、29歳以下が最も高く、年代が上がるにつれて来街頻度が低くなる傾向にある。

《来街目的》

- 全体では「食事・喫茶・飲食など」が47.5%と最も多く、次いで「ウィンドウショッピング」35.3%、「日常の買物」33.9%、「ちょっと高級な買物」27.4%の順となっている。
- 女性の年代別にみると、全ての年代で「食事・喫茶・飲食など」が最も多いが、年代が下がるにつれて「娯楽」や「通勤・通学」の割合が高くなり、年代が上がるにつれて「ちょっと高級な買物」「所用（仕事、銀行等）」の割合が高くなる傾向がみられる。

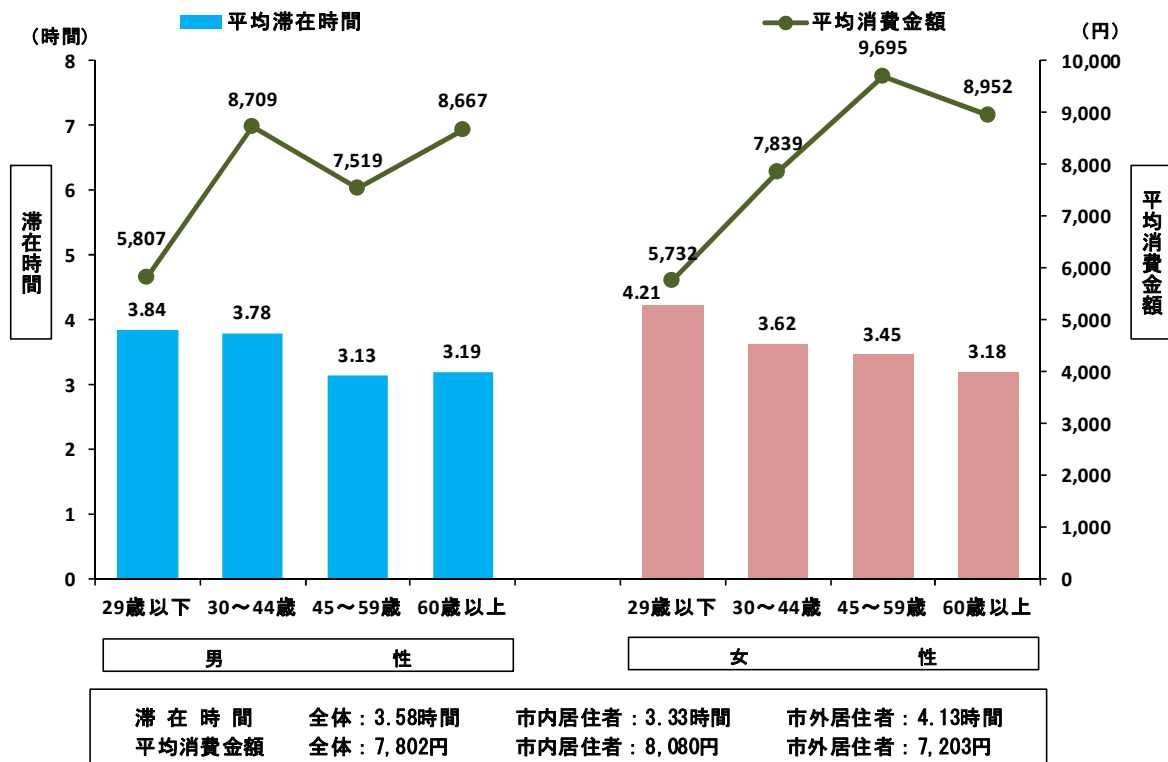


《滞在時間と消費金額》

- 平均滞在時間は全体で3.58時間。
- 市内居住者の3.33時間に対し、市外居住者は4.13時間となっており、市内居住者よりも約1時間長く滞在している。
- 女性29歳以下の4.21時間が最も長く、次いで男性29歳以下3.84時間となっており、男女ともに概ね年代が上がるにつれて、滞在時間が短くなる傾向がみられる。

- 平均消費金額は全体で 7,802 円。
- 市外居住者の 7,203 円に対し、市内居住者は 8,080 円となっており、市外居住者よりも 900 円程度多く消費している。
- 女性 45～59 歳の 9,695 円が最も多く、次いで、女性 60 歳以上 8,952 円、男性 30～44 歳 8,709 円、男性 60 歳以上 8,667 円の順となっており、いずれも来街目的に「ちょっと高級な買物」との回答が多かった年代となっている。

■ 小倉中心市街地での滞在時間と消費金額 ■

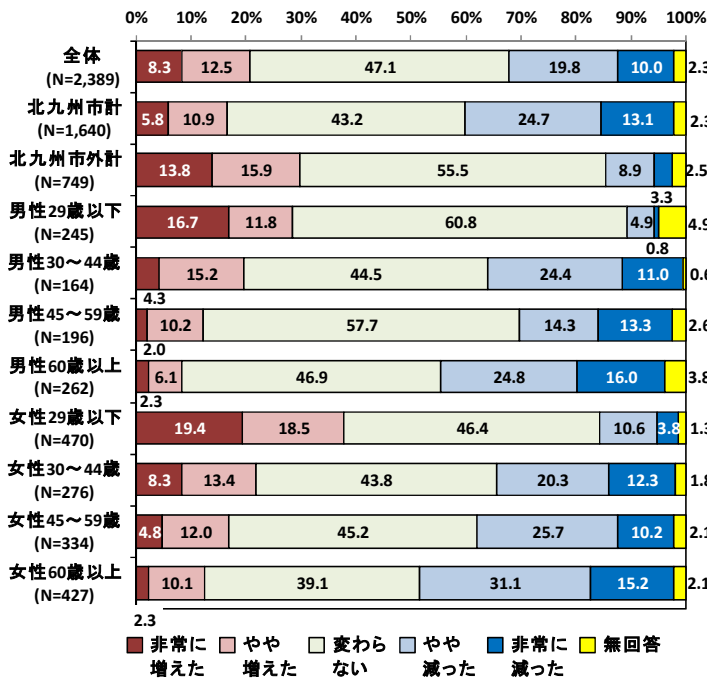


《来街頻度の変化とその理由》

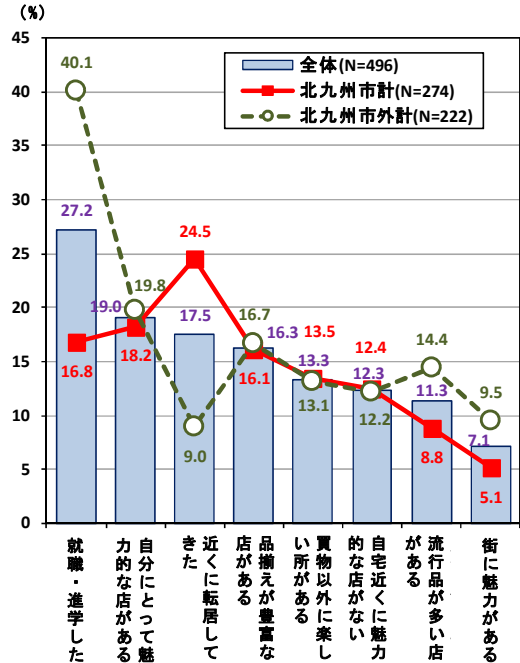
- 「非常に増えた」「やや増えた」と回答した人を『増加層』、「やや減った」「非常に減った」と回答した人を『減少層』とした場合、全体では、増加層 20.8%に対し減少層 29.8%で減少傾向にある。
- 市内居住者は増加層 16.7%に対し減少層 37.8%で減少傾向にあるが、市外居住者は増加層 29.6%に対し減少層 12.3%で増加傾向にある。
- 男女ともに 29 歳以下は大幅な増加傾向にあり、概ね年代が上がるにつれて減少超過が拡大していく傾向が見られる。
- 小倉中心市街地を訪れる頻度が増えた理由をみると、全体では「就職・進学した」が 27.2%と最も多く、次いで、「自分にとって魅力的な店がある」19.0%、「近くに転居してきた」17.5%、「品揃えが豊富な店がある」16.3%の順となっている。
- 市内居住者は「近くに転居してきた」が 24.5%、市外居住者では「就職・進学した」

が 40.1%で最も多く、「流行品が多い店がある」と「街に魅力がある」は、市内居住者よりも市外居住者の回答の割合が高くなっている。

■ 小倉中心市街地を訪れる頻度の変化 ■



■ 小倉中心市街地を訪れる頻度が増えた理由 ■



《小倉中心市街地に対するイメージ》

【イメージ上位5項目】

市内居住者	
① 電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.9
② 医療機関が充実しているまちだと思う	3.7
③ 公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.7
④ 名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	3.6
⑤ 飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	3.5
市外居住者	
① 電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	4.3
② 飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	4.2
③ 広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	4.1
④ 公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	4.1
⑤ ぶらぶら歩いて楽しいまちだと思う	4.0

評 点	
そう思う	5
ややそう思う	4
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	2
そう思わない	1

【イメージに差のある上位5項目】

	市 内	市 外
① ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う	2.5	3.5
② 街並みがおしゃれだと思う	2.8	3.7
③ 長時間滞在しても飽きのこないまちだと思う	2.7	3.6
④ お店の人の威勢がよく、活気があるまちだと思う	2.9	3.7
⑤ 子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う	3.0	3.8

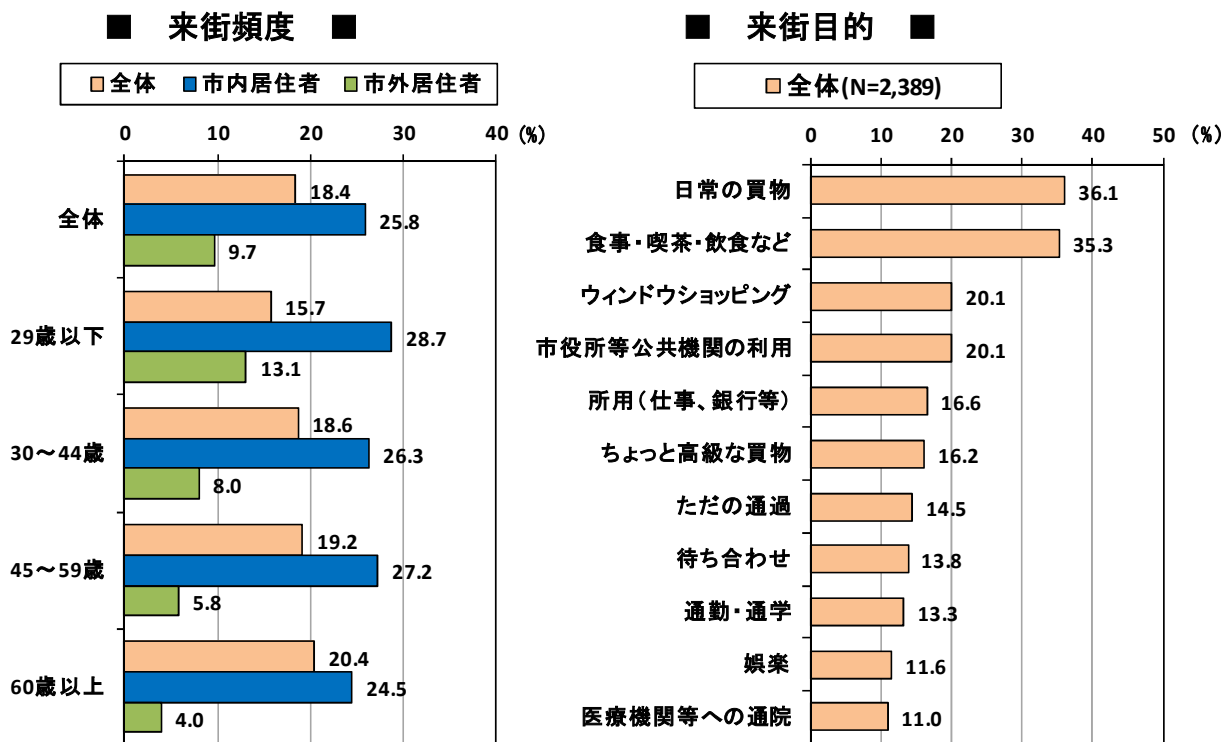
7 黒崎中心市街地の利用状況

《来街頻度》

- 黒崎中心市街地を買い物目的に限らず月1回以上訪れている人の割合は、全体では18.4%（市内居住者25.8%、市外居住者9.7%）である。
- 市外居住者は年代が上がるにつれて来街頻度が低くなる傾向にある。

《来街目的》

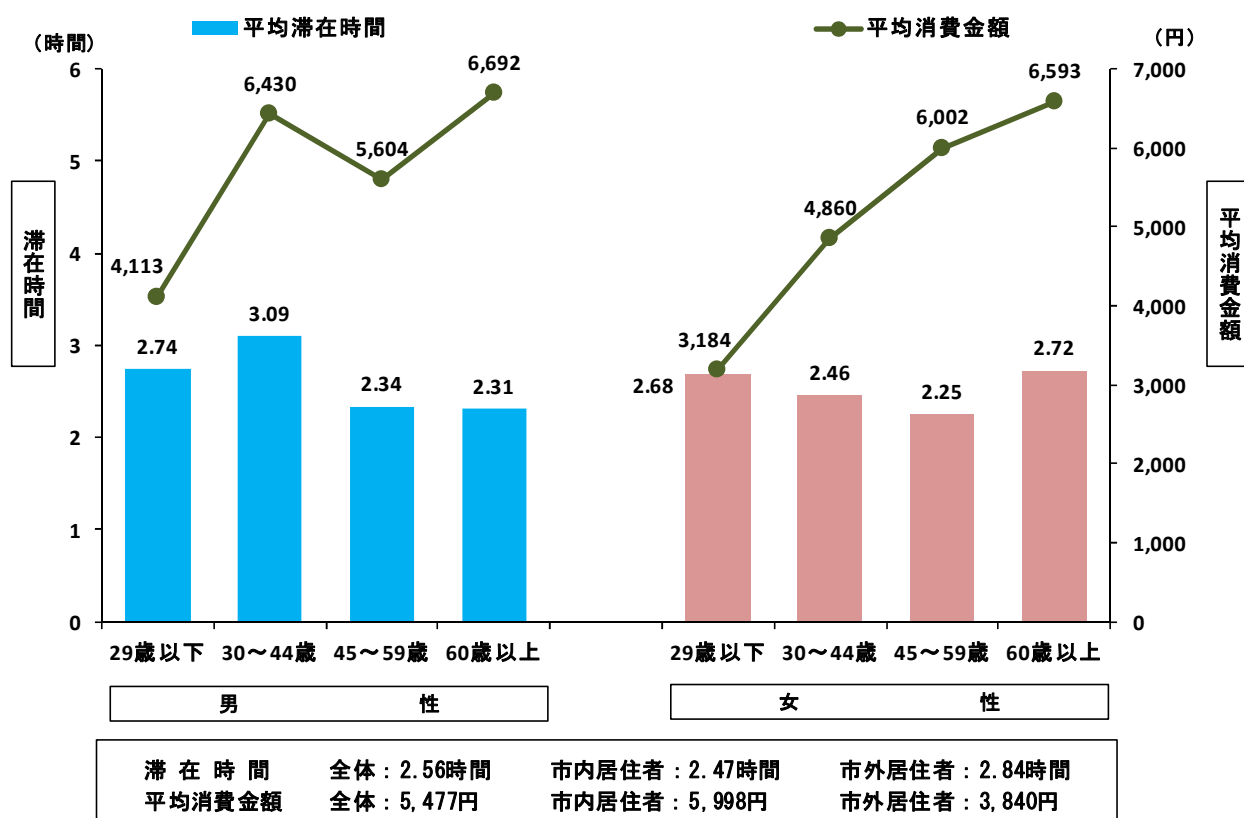
- 全体では、「日常の買物」が36.1%と最も高く、次いで「食事・喫茶・飲食など」35.3%、「ウィンドウショッピング」・「市役所等公共機関の利用」20.1%の順となっている。
- 女性の年代別にみると、全ての年代で上位2つは「日常の買物」「食事・喫茶・飲食など」となっているが、「ちょっと高級な買物」は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。



《滞在時間と消費金額》

- 平均滞在時間は全体で2.56時間。
- 市内居住者の2.47時間に対し、市外居住者2.84時間となっており、あまり大きな差はみられない。
- 男性30～44歳が唯一3時間を超えている。
- 平均消費金額は全体で5,477円。
- 市外居住者の3,840円に対し、市内居住者は5,998円となっており、市外居住者よりも2,000円以上多く消費している。
- 女性は滞在時間の長さとは関係なく年代が上がるにつれて平均消費金額が高くなっている。

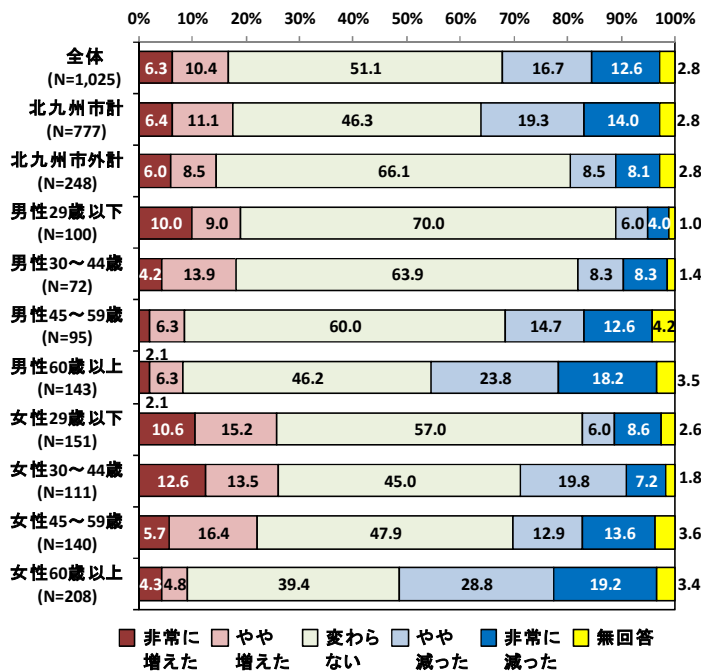
■ 黒崎中心市街地での滞在時間と消費金額 ■



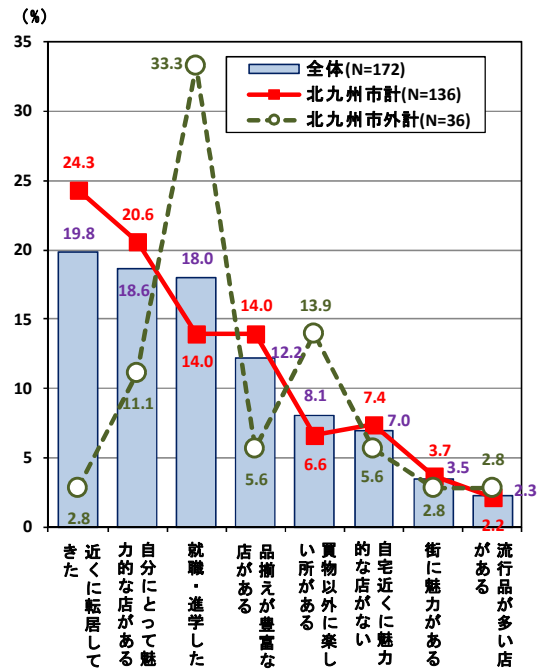
《来街頻度の変化とその理由》

- 「非常に増えた」「やや増えた」と回答した人を『増加層』、「やや減った」「非常に減った」と回答した人を『減少層』とした場合、全体では増加層 16.7%に対し減少層 29.3%で減少傾向にある。
- 市内居住者は増加層 17.5%に対し減少層 33.3%で減少傾向にあるが、市外居住者は増加層 14.5%に対し減少層 16.6%とほぼ拮抗している。
- 男女ともに 29 歳以下は増加傾向にあるが、概ね年代が上がるにつれて減少傾向が強まっており、男女とも 60 歳以上で減少超過が最も大きくなっている。
- 黒崎中心市街地を訪れる頻度が増えた理由をみると、全体では「近くに転居してきた」が 19.8%と最も多く、次いで、「自分にとって魅力的な店がある」18.6%、「就職・進学した」18.0%、「品揃えが豊富な店がある」12.2%の順となっている。
- 市外居住者では「就職・進学した」が 33.3%と最も多くなっているが、「買物以外に楽しいところがある」が 13.9%あることなどから、黒崎中心市街地の魅力のある程度評価している様子もうかがえる。

■ 黒崎中心市街地を訪れる 頻度の変化 ■



■ 黒崎中心市街地を訪れる 頻度が増えた理由 ■



《黒崎中心市街地に対するイメージ》

【イメージ上位5項目】

市内居住者	
① 電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.6
② 医療機関が充実しているまちだと思う	3.3
③ 公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.2
④ 名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	2.7
⑤ 住むのに便利で快適なまちだと思う	2.7
市外居住者	
① 電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.9
② 公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.8
③ 夜の賑わいがあるまちだと思う	3.7
④ 医療機関が充実しているまちだと思う	3.7
⑤ 広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	3.5

評 点	
そう思う	5
ややそう思う	4
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	2
そう思わない	1

【イメージに差のある上位5項目】

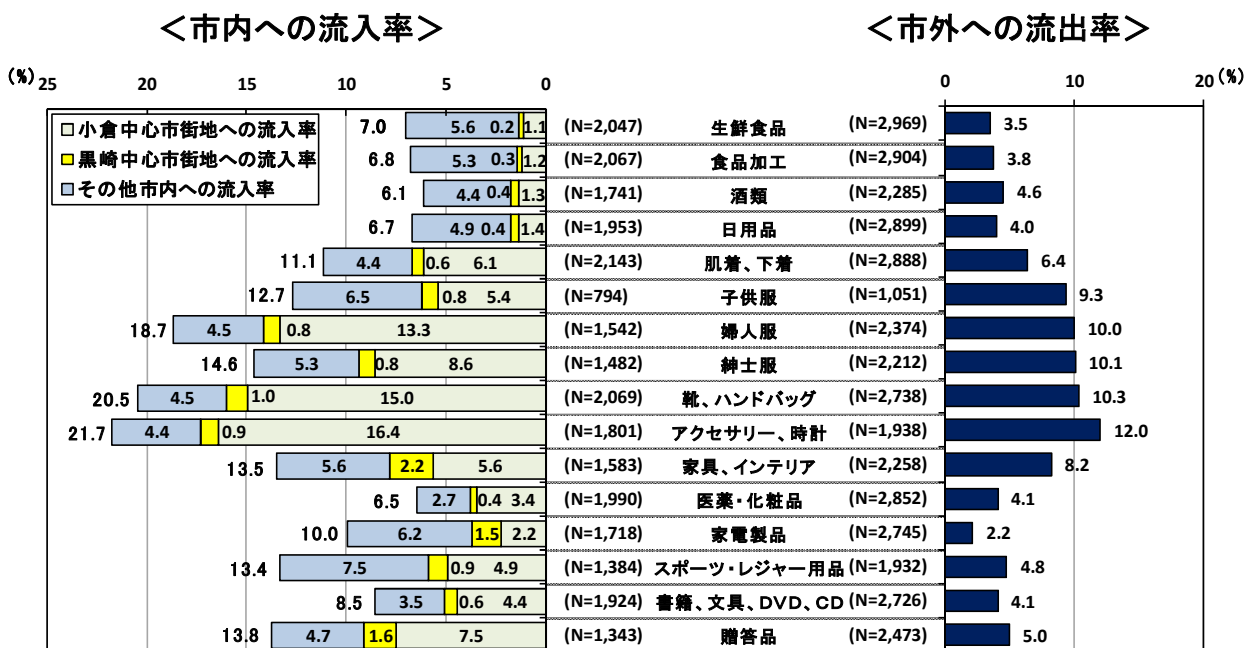
	市 内	市 外
① 夜の賑わいがあるまちだと思う	2.4	3.7
② 飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	2.1	3.4
③ ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う	1.9	3.2
④ 子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う	2.2	3.5
⑤ 広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	2.3	3.5

8 ふだんの買物行動

《買物場所》

- 全ての品目で、流入率（市外居住者が北九州市内へ買物に来る割合）が流出率（市内居住者が北九州市外へ買物に行く割合）を上回る流入超過の状態となっており、買回品を中心に小倉中心市街地への流入が目立っている。
- 品目別に流入超過の状況をみると、「靴、ハンドバッグ」の10.2ポイントが最も大きく、次いで、「アクセサリー、時計」9.7ポイント、「贈答品」8.8ポイント、「婦人服」8.7ポイント、「スポーツ・レジャー用品」8.5ポイントの順となっている。

■ 市内への流入率・市外への流出率 ■



《買物先の店舗形態》

- 最寄品のうち「生鮮食品」「食品加工」「酒類」は、『食品スーパー』が最も高く、「日用品」は『総合スーパー・SC（ショッピングセンター）』『ディスカウントストア』が上位となっている。
- 買回品のうち、各種衣料、「靴、ハンドバッグ」は『総合スーパー・SC』、「アクセサリー、時計」では『デパート』、「家電製品」「スポーツ・レジャー用品」「書籍、文具、DVD、CD」では『専門店』、「家具、インテリア」では『ホームセンター』が最も多くなっている。
- 消費者は、品目ごとに利用する店舗形態を使い分けていることがうかがわれる。

■ 品目別にみた買物先の店舗形態TOP3 ■

【最寄品】

	生鮮食品		食品加工		酒類		日用品		医薬・化粧品	
市内 居住者	食品スーパー	57.1	食品スーパー	51.6	食品スーパー	34.1	総合スーパー・SC	23.3	ドラッグストア	54.6
	総合スーパー・SC	24.1	総合スーパー・SC	25.2	ディスカウントストア	22.9	ディスカウントストア	19.1	総合スーパー・SC	16.4
	ディスカウントストア	5.7	ディスカウントストア	10.0	総合スーパー・SC	21.7	ホームセンター	17.7	ディスカウントストア	5.4
市外 居住者	食品スーパー	53.0	食品スーパー	47.0	食品スーパー	34.1	ディスカウントストア	26.5	ドラッグストア	42.9
	総合スーパー・SC	19.8	総合スーパー・SC	20.7	ディスカウントストア	24.1	総合スーパー・SC	22.1	総合スーパー・SC	17.0
	ディスカウントストア	10.7	ディスカウントストア	14.6	総合スーパー・SC	16.4	食品スーパー	13.2	ディスカウントストア	11.7

【買回品】

	肌着、下着		子供服		婦人服		紳士服		靴、ハンドバッグ	
市内 居住者	総合スーパー・SC	53.8	総合スーパー・SC	55.5	総合スーパー・SC	41.5	総合スーパー・SC	40.6	総合スーパー・SC	35.6
	デパート	12.6	デパート	16.8	デパート	30.8	デパート	26.0	デパート	35.0
	専門店	7.1	専門店	11.5	専門店	8.5	専門店	18.3	専門店	10.4
市外 居住者	総合スーパー・SC	44.9	総合スーパー・SC	37.1	総合スーパー・SC	40.5	総合スーパー・SC	38.3	総合スーパー・SC	36.8
	デパート	17.7	デパート	16.7	デパート	26.5	デパート	20.5	デパート	27.7
	専門店	10.0	専門店	9.6	専門店	9.5	専門店	19.7	専門店	13.2

	アクセサリ、時計		家具、インテリア		家電製品		スポーツ・レジャー用品		書籍、文具、DVD、CD	
市内 居住者	デパート	39.0	ホームセンター	43.6	専門店	74.7	専門店	57.2	専門店	50.6
	総合スーパー・SC	25.7	専門店	29.4	総合スーパー・SC	4.9	総合スーパー・SC	19.0	総合スーパー・SC	23.5
	専門店	13.9	総合スーパー・SC	7.7	ホームセンター	4.8	ホームセンター	4.3	インターネット	8.1
市外 居住者	総合スーパー・SC	32.1	専門店	30.9	専門店	59.7	専門店	45.5	専門店	42.5
	デパート	29.9	ホームセンター	23.2	総合スーパー・SC	10.9	総合スーパー・SC	22.2	総合スーパー・SC	25.8
	専門店	14.4	総合スーパー・SC	13.7	デパート	5.3	デパート	7.4	デパート	9.2

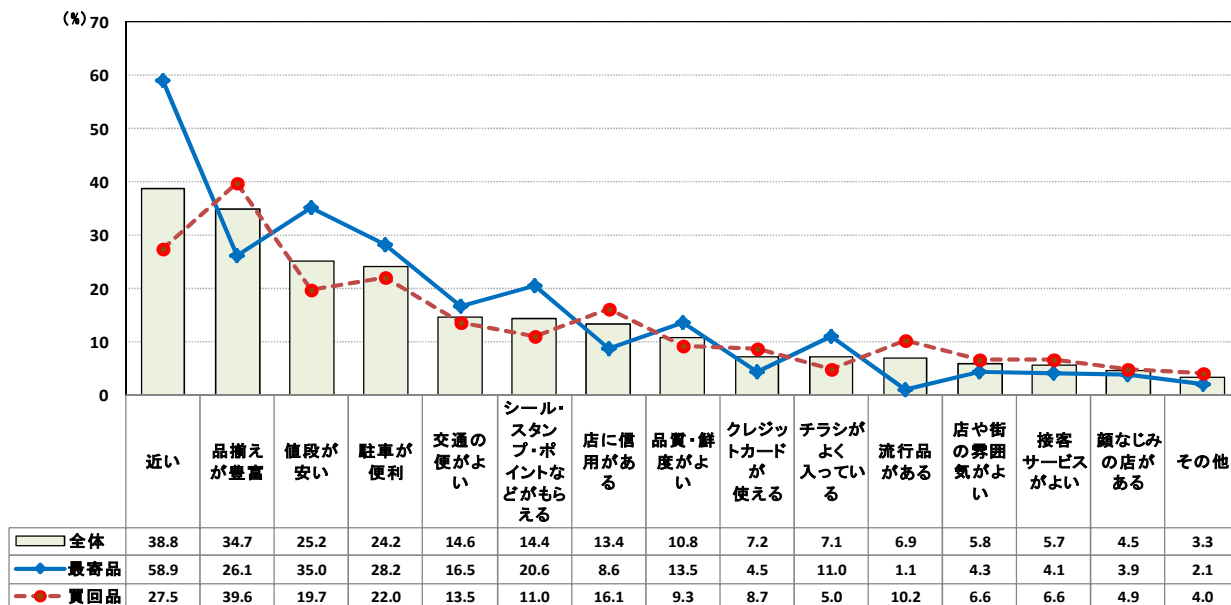
贈答品	
市内 居住者	デパート 55.4
	総合スーパー・SC 22.4
	専門店 5.0
市外 居住者	総合スーパー・SC 38.4
	デパート 24.8
	専門店 11.6

70%以上
 50～70%未満
 30～50%未満

《買物先を選ぶ理由》

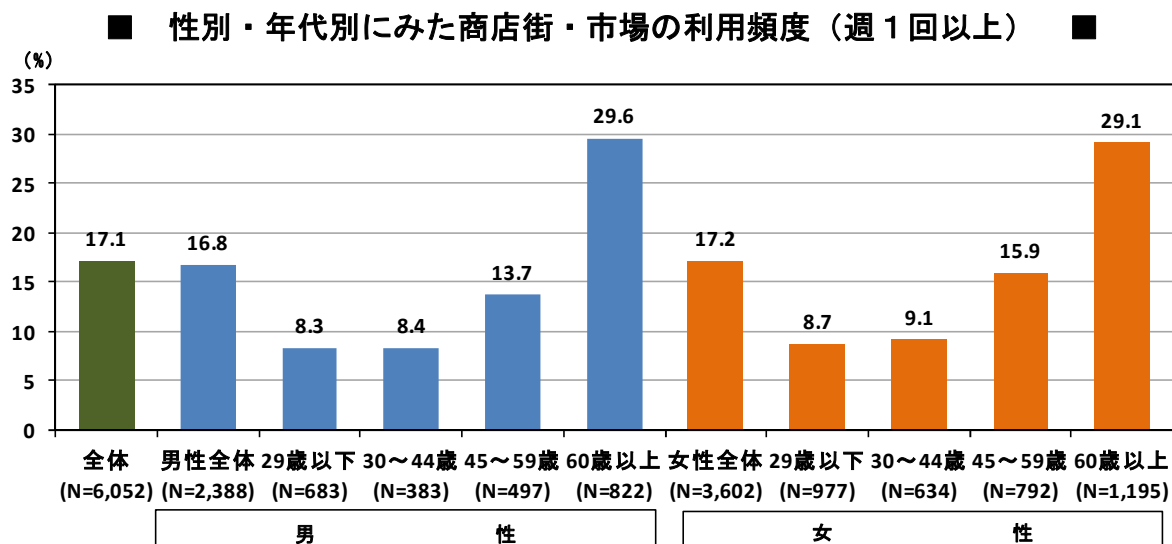
- 全体では「近い」38.8%が最も多く、次いで「品揃えが豊富」34.7%、「値段が安い」25.2%、「駐車が便利」24.2%の順となっている。
- 最寄品では「近い」が58.9%と圧倒的に多くなっているが、買回品では「品揃えが豊富」が39.6%と最も多く、買物先を選ぶ理由に違いがみられる。

■ 買物をする際に店舗を選ぶ理由 ■



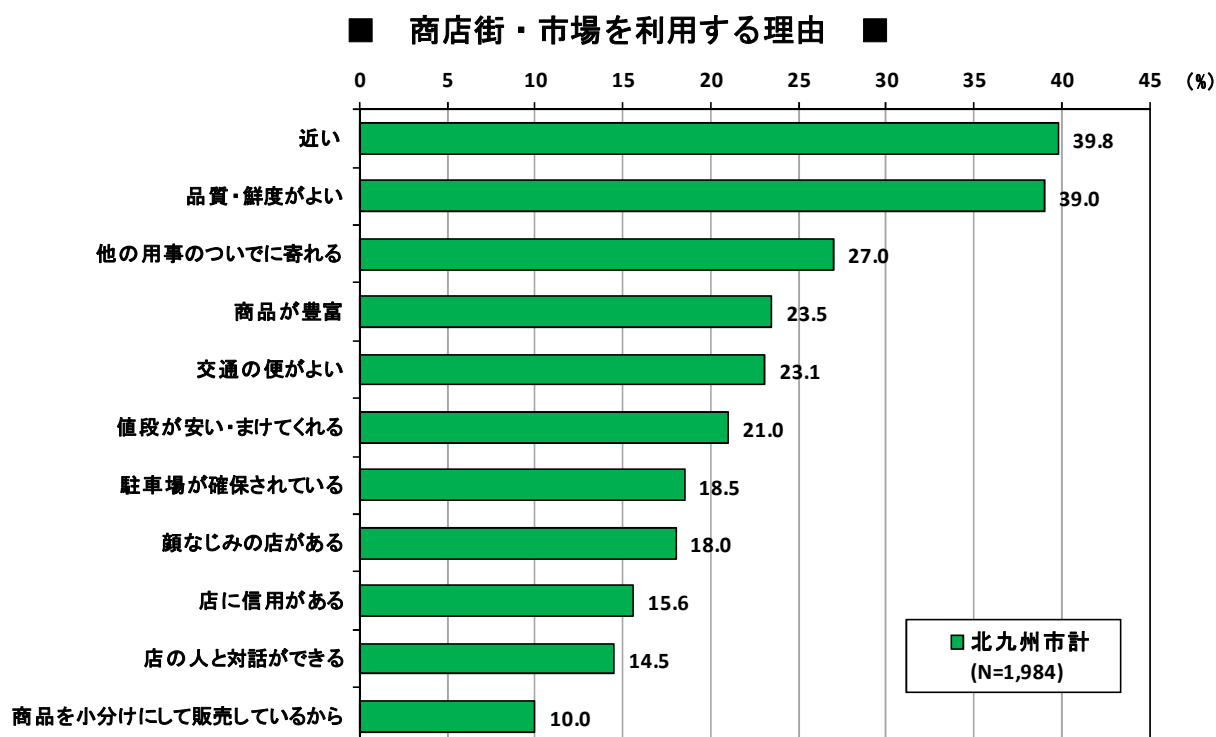
《商店街・市場の利用状況》

- 商店街・市場を週1回以上利用する人の割合は、全体では17.1%。
- 男女ともに年代が上がるにつれて利用頻度が高くなり、60歳以上の男性は29.6%、女性は29.1%で、29歳以下と30～44歳の約3倍、45～59歳の約2倍高い。



《商店街・市場を利用する理由》

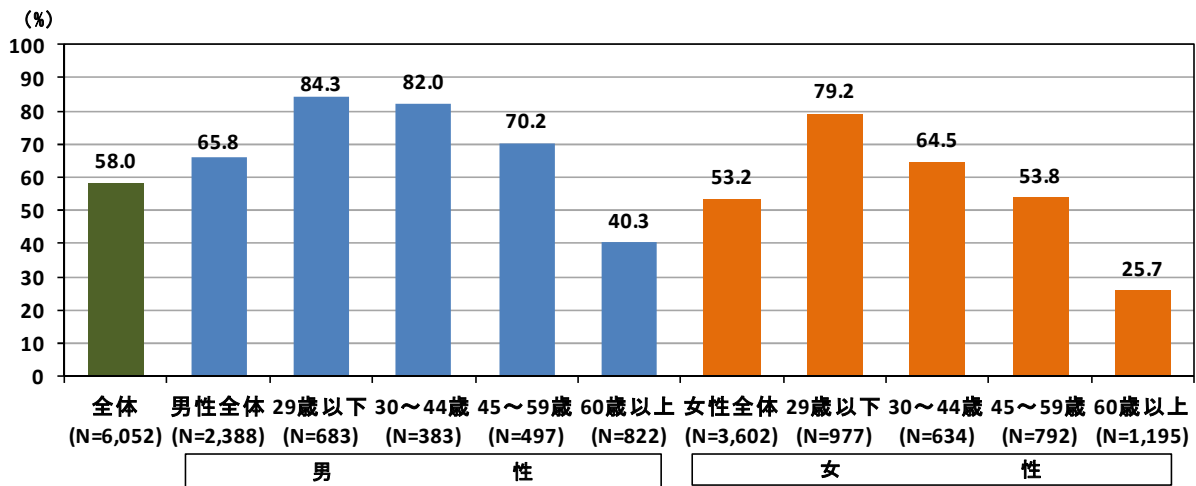
- 市内居住者が商店街・市場を利用する理由をみると、「近い」39.8%、「品質・鮮度がよい」39.0%の2つが突出している。次いで、「他の用事のついでに寄れる」27.0%、「商品が豊富」23.5%、「交通の便がよい」23.1%、「値段が安い・まけてくれる」21.0%の順となっている。



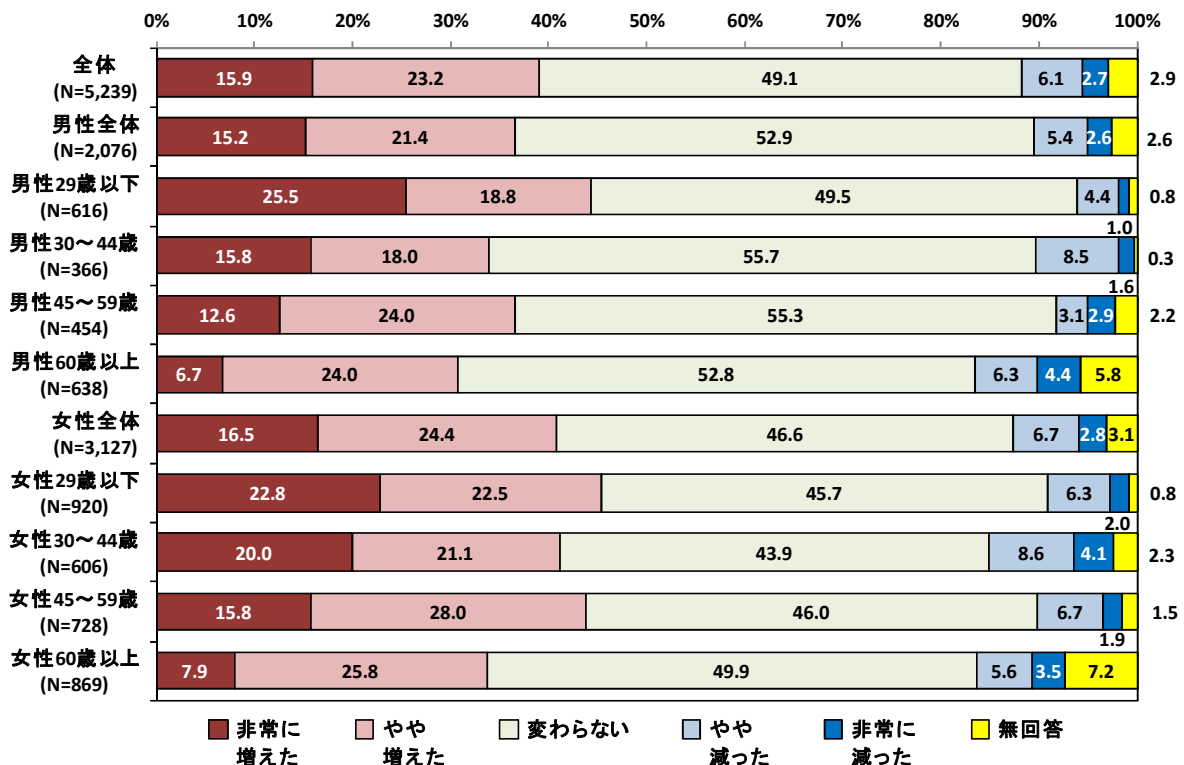
9 コンビニエンスストアの利用状況

- コンビニエンスストアを週1回以上利用する人の割合は、全体では58.0%。
- 男女ともに年代が下がるにつれて利用頻度が高くなっており、男性は29歳以下が84.3%、女性も29歳以下が79.2%と最も高くなっている。
- コンビニエンスストアの利用頻度の変化をみると、全体では増加層が39.1%（「非常に増えた」15.9%、「やや増えた」23.2%）、減少層が8.9%（「やや減った」6.1%、「非常に減った」2.7%）となっており、増加層が減少層を大きく上回っている。

■ コンビニエンスストアの利用頻度（週1回以上） ■



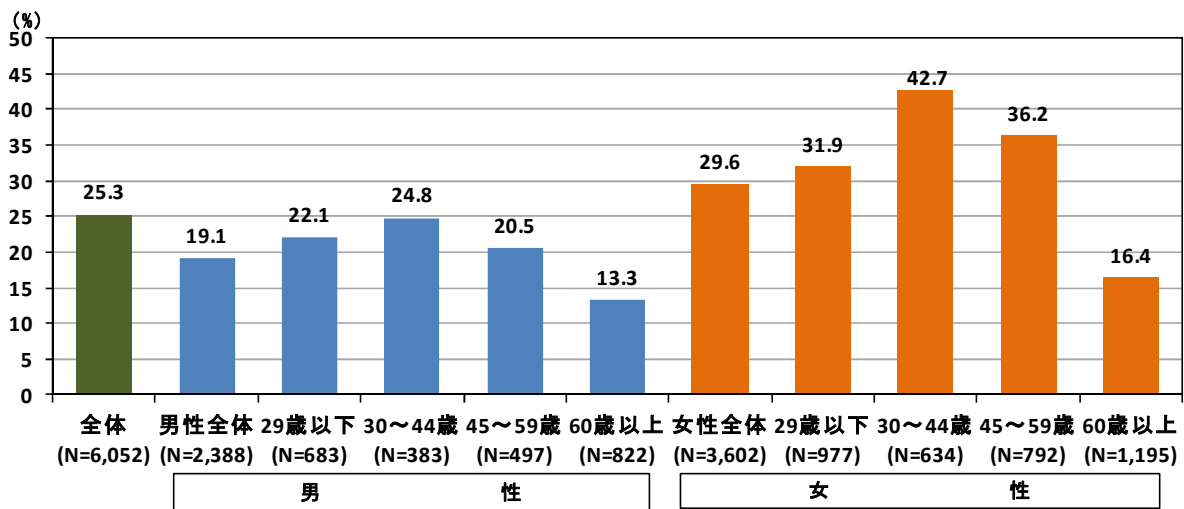
■ コンビニエンスストアの利用頻度の変化 ■



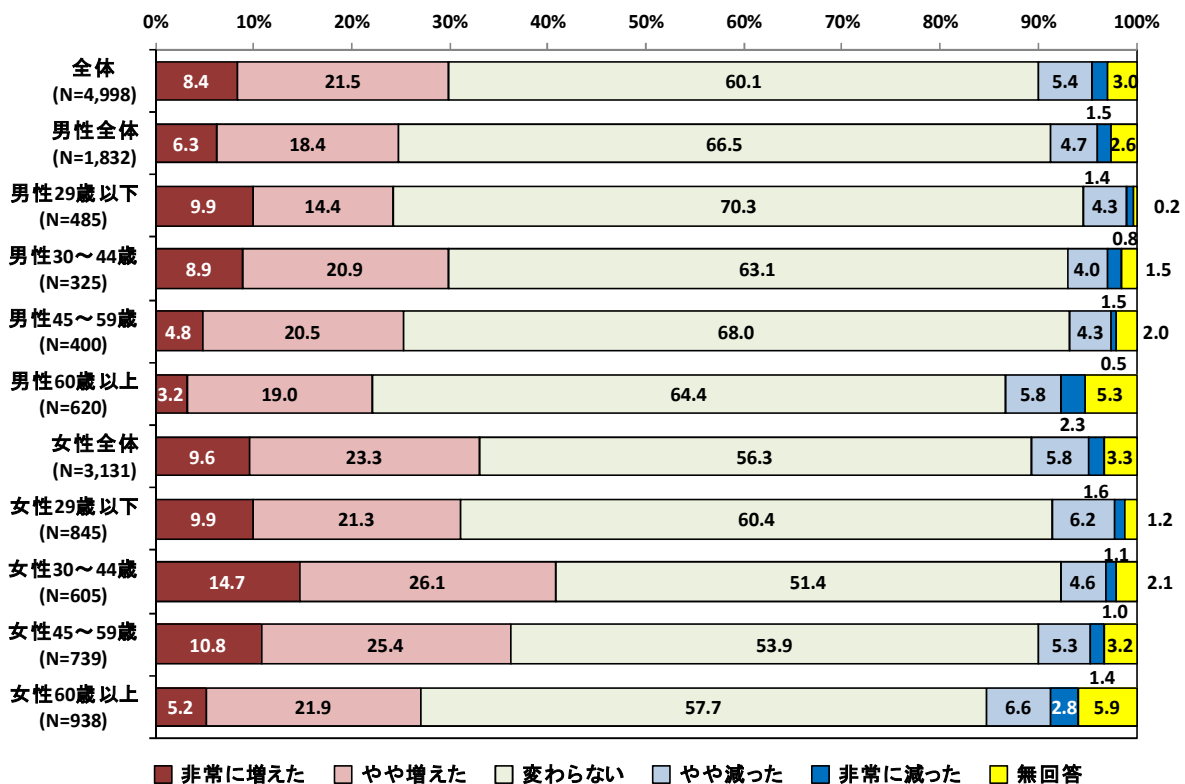
10 ドラッグストアの利用状況

- ドラッグストアを週1回以上利用する人の割合は、全体では25.3%。
- 男性よりも女性の利用割合が高く、女性30～44歳42.7%、女性45～59歳36.2%、女性29歳以下31.9%の順となっている。
- ドラッグストアの利用頻度の変化をみると、全体では増加層が29.9%（「非常に増えた」8.4%、「やや増えた」21.5%）、減少層が6.9%（「やや減った」5.4%、「非常に減った」1.5%）となっており、増加層が減少層を大きく上回っている。
- 女性30～44歳の増加層が40.8%と最も多く、唯一40%を超えている。

■ ドラッグストアの利用頻度（週1回以上） ■

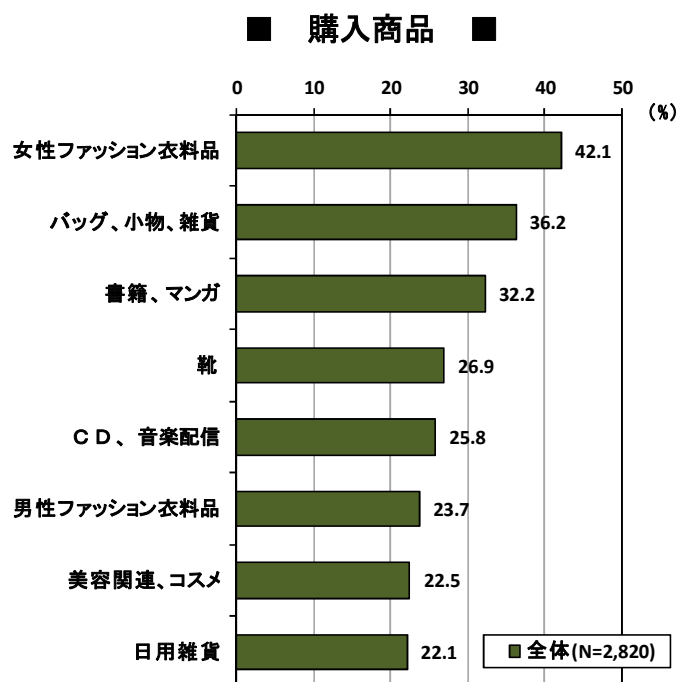
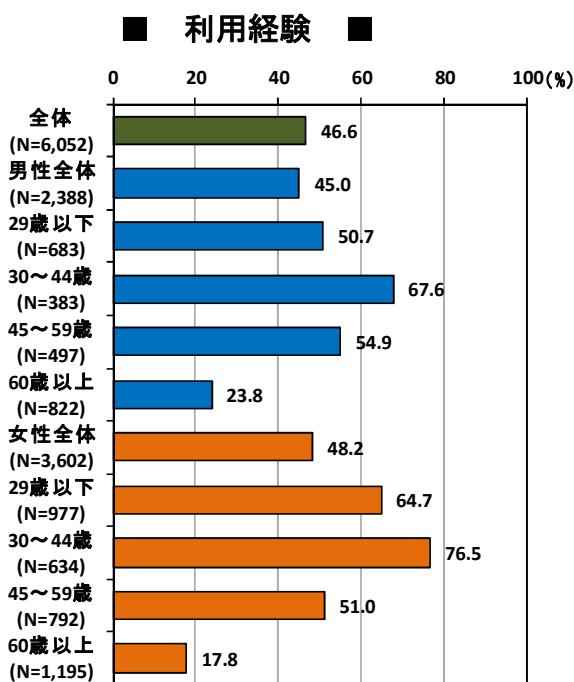


■ ドラッグストアの利用頻度の変化 ■

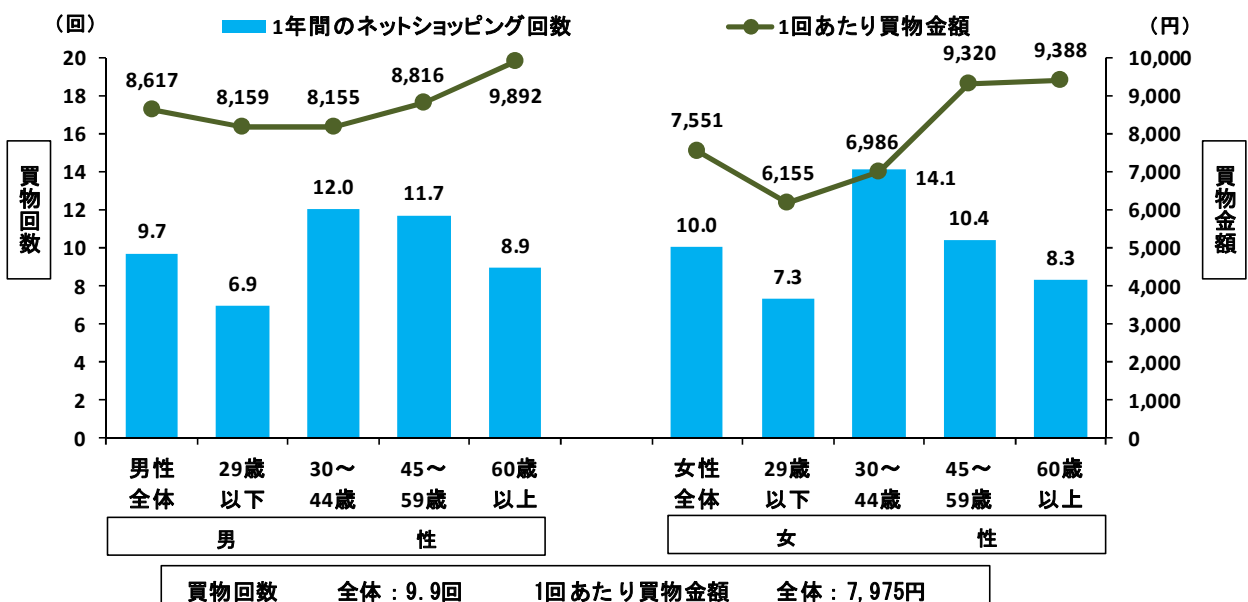


11 ネットショッピングの利用状況

- ネットショッピングの利用経験は、全体では 46.6%。
- 60 歳以上では割合が低く、高齢者にはまだ十分に浸透していないことがうかがえる。
- 購入商品を見ると、全体では「女性ファッション衣料品」が 42.1%と最も多く、次いで「バッグ、小物、雑貨」36.2%、「書籍、マンガ」32.2%、「靴」26.9%、「CD、音楽配信」25.8%の順となっている。
- 1 年間の利用状況を見ると、全体では利用回数は平均 9.9 回、1 回あたりの買物金額は 7,975 円となっている。
- 回数は男女とも 30～44 歳が最も多く、1 回あたりの買物金額では、男女とも 60 歳以上（男性 9,892 円、女性 9,388 円）が最も多くなっている。

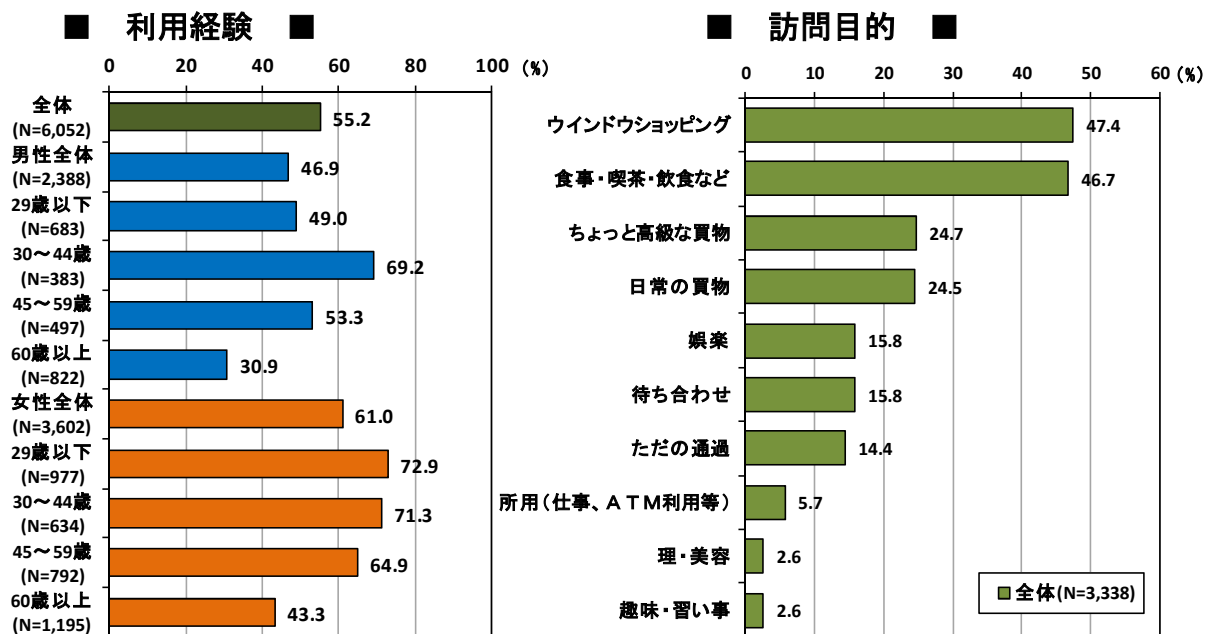


■ ネットショッピング回数と1回あたりの買物金額（年間） ■

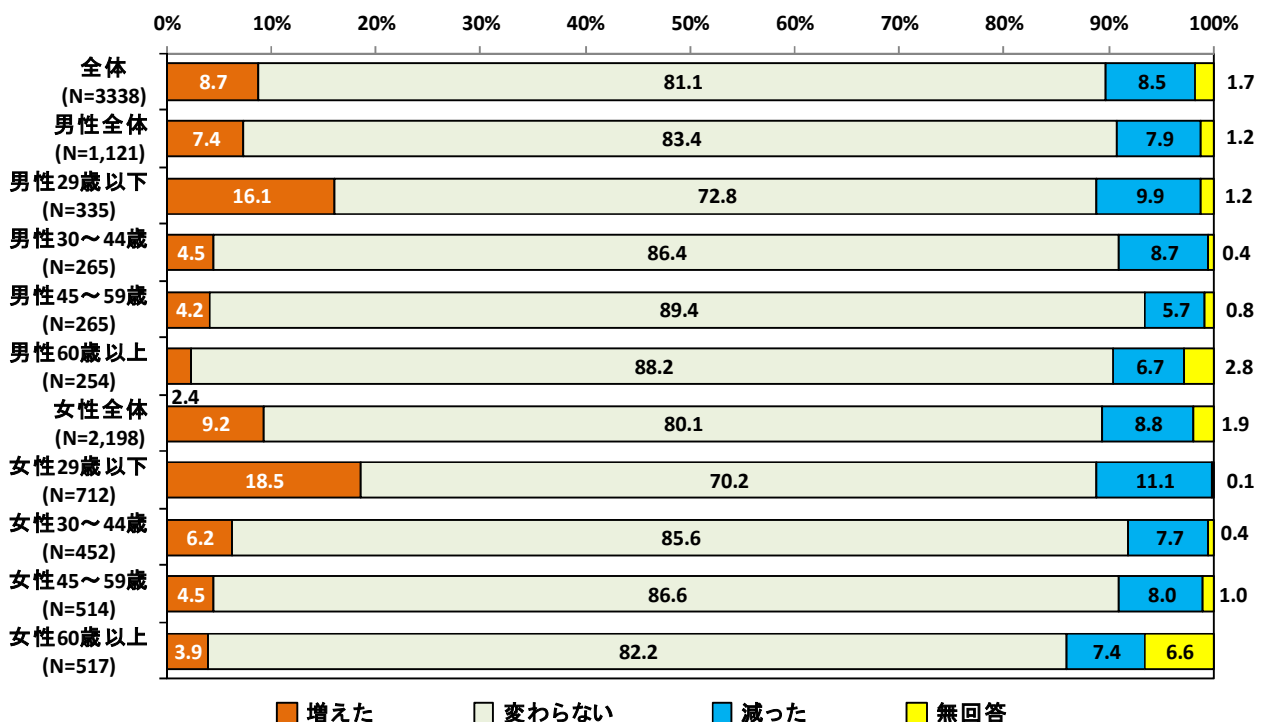


12 JR博多シティの利用状況

- 「行ったことがある」という訪問経験は、全体では 55.2%。
- 女性では年代が下がるにつれてその割合が高く、29 歳以下・30～44 歳では 70% を超えている。男性では、30～44 歳の 69.2% が最も高くなっている。
- 訪問目的としては、北九州市内、市外を問わず、「ウィンドウショッピング」や「食事・喫茶・飲食など」の割合が高くなっている。
- JR博多シティを利用することで、それまで普段利用していた商業地区の利用頻度の変化をみると、全体では「変わらない」が 81.1% と圧倒的に多い。



■ 普段利用する商業地区の利用頻度の変化 (JR博多シティ利用による影響) ■



平成27年度 北九州市商圈調査報告書

平成28年3月

北九州市

【調査企画】

北九州市産業経済局観光にぎわい部商業振興課

〒803-8501

北九州市小倉北区域内1番1号

TEL 093-582-2050

【調査・集計・分析】

株式会社 東京商工リサーチ

〒802-0003

北九州市小倉北区米町二丁目1番2号小倉第一生命ビル

TEL 093-551-1731